

NUFSA 留学生の家族のための日本語・日本事情コース

国際教育交流センターアドバイジング部門

伊 藤 ゆ り

「留学生の家族のための日本語・日本事情コース」は、名古屋大学に在籍する留学生の家族を主な対象とした名古屋大学留学生会主催のコースである。実際の運営については、国際教育交流センターアドバイジング部門が留学生の家族支援の一環として行なっている。4月からの春学期と10月からの秋学期に開講し、インターナショナルレジデンス東山の地下会議室にて火曜日と木曜日の週2日、1時間半の授業を2コマずつ行っている。昭和62年（1987年）に開講したこのコースは、平成30年（2018年）度で32年目を迎えた。

今年度は前期26名、後期26名の受講生が在籍し、4レベルに分かれて、専門性と経験を備えた3名の教師のもとで学習した。教師たちには授業の他にも会話練習や文化祭等の行事においても協力いただいております。アドバイジング部門は教師たちと緊密な連携を図りながら、コース運営の充実に努めている。

コースの運営資金は受講料の他に、名古屋大学留学生後援会からの補助金と名古屋栄ライオンズクラブからの寄付により成り立っている。名古屋栄ライオンズクラブからは平成6年（1994年）秋より継続的な支援を受けており、支援を受けた受講生の人数は今年度で延べ2,182名となった。開講式や会話練習、冬の文化祭へも当クラブ会員を招待して、受講生との交流を深めていただいた。また、例年のようにクラブの例会に2名の受講生を招待いただき、受講生はスピーチをして学習の成果を披露した。また今年度は、当クラブの25周年記念にも受講生と教師たちが招待され、日頃の支援のお礼を伝えることができた。

コースには幼児を抱える受講生も在籍し、平成15年（2003年）からは地域のボランティアグループ「ひろば」が託児サービスを提供してくださっている。今年度は託児希望者が多かったが、子どもたちの安全確保のため託児人数は各コマ4名までとした。昨年に引き続いて受講生が託児登録費を支払うとともに、留学生支援事業費「留学生の生活支援」の一部として託児補助費を計上し、ボランティア交通費相当の活動費を「ひろ

ば」に支払った。また、「ひろば」は授業後にティーパーティーを開催するなど、ベビーシッターサービスを申し込んでいない受講生とも交流を持ってくださっている。

名古屋大学留学生会が地域ボランティア等からの寄附を得ながら主催する本コースは、近年受講生数の減少とも関係して財政状況が厳しくなっている。しかし日本語学習を必要とする家族のニーズは常にあり、留学生の家族支援はSGUの中でも重要視されていることから、今後もコースが継続できるよう、大学としての支援の形を検討することが必要である。

コース担当教師からの報告

このコースは名古屋大学関係者の家族を対象に、日本での生活へのソフトランディングと初級程度の日本語の定着を目指して開講している。授業では日常生活ですぐに役立つ日本語の習得のほか、文法や日本語でのコミュニケーションに重点を置いているが、実践的に日本語を話す場も設けている。その一つである冬の文化祭において、本年度は自国の料理を持ち寄って作り方を発表した。これは受講生だけでなくご参加いただいた名古屋栄ライオンズクラブやひろばの方々にも大変好評であった。

そのほかの成果発表として、最終クラスを受講生はスピーチを行っている。テーマ決定から発表に至るまで日本語漬けの日々を送ることになるが、これを通して日本語が格段に上達し、受講生の大きな自信となっている。

また、7月と2月には名古屋栄ライオンズクラブやひろばの方々をお招きして会話練習を行っており、受講生は授業で学んだ成果を実感している。2018年7月には津賀田中学校和楽器部の生徒を招き、会話練習への参加と長唄披露をしていただいた。この中学生との交流は受講生にとって貴重な体験となった。

このように授業の他に発表や交流の場を設ける事で、受講生にとって日本の生活がより豊かなものになっている。教師は今後とも有意義なコースになるよう、日々努力を重ねていきたい。

教師：岩崎陽子
 邊見香苗
 水野百々世